

氏名	田中紀子
学位の種類	修士(看護学)
学位記番号	修士第135号
学位授与年月日	平成22年3月25日
学位論文題目	高齢透析患者の療養生活の意味づけ

論 文 内 容 要 旨

※整理番号	135	(ふりがな) 氏 名	(たなか みちこ) 田中 紀子
修士論文題目	高齢透析患者の療養生活の意味づけ		
<p>【研究目的】本研究の目的は、在宅生活を送る高齢透析患者が、療養生活をどのように意味づけているかを明らかにすることである。</p> <p>【研究方法】研究対象は、本研究の趣旨に同意を得られた高齢透析患者 8 名であった。研究方法は、質的記述的帰納法を採用し、データ収集方法は、半構成的質問紙による個人面接法を行った。分析は、得られたデータを逐語録におこし、研究目的に沿って、意味解釈できる最小単位であるコードを抽出し比較検討を行いながらカテゴリー化した。</p> <p>【結果】分析の結果、442 個のコード、63 個の下位カテゴリー、32 個の中位カテゴリー、7 個の上位カテゴリーが抽出された。抽出された上位カテゴリーは、【療養生活を円滑に過ごすための努力】【暗澹とした療養生活はやるせない】【療養生活と折り合う】【家族や他者にかかる迷惑への配慮】【人間関係から感じる自己の存在価値】【生ある者として生き抜く姿勢】【透析療法における期待】と命名された。各々上位カテゴリーには、2 個～9 個の中位カテゴリーがあった。</p> <p>【考察】高齢透析患者の療養生活は、【生ある者として生き抜く姿勢】に貫かれており、その療養生活は【療養生活を円滑に過ごすための努力】であると意味づけられていると考えられた。一方で、透析療法による生活上の規制や加齢に伴う心身の機能低下を感じ、【暗澹とした療養生活はやるせない】と意味づける思いがあり、精神的葛藤を生じていると思われた。その葛藤に対し、高齢透析患者は、【療養生活と折り合う】ことで透析療法を受容しようとしており、この葛藤は行きつ戻りつしていると思われた。また、高齢透析患者は、療養生活の中で【人間関係から感じる自己の存在価値】を有しており、【家族や他者にかかる迷惑への配慮】をしたり、【療養生活を円滑に過ごすための努力】をしてさまざまな困難を乗り越えて行こうとしているものと思われた。そして、【人間関係から感じる自己の存在価値】は、【療養生活を円滑に過ごすための努力】や【暗澹とした療養生活はやるせない】【療養生活と折り合う】【家族や他者にかかる迷惑への配慮】【生あるものとして生き抜く姿勢】【透析療法における期待】に影響し、【生ある者として生き抜く姿勢】は、患者の療養生活を前向きにしていると思われた。</p> <p>【総括】高齢透析患者は、療養生活の中で、透析療法に伴う身体的苦痛、精神的負担や加齢に伴うさまざまな喪失体験を経験しながらも、療養生活を現在の機能を維持、向上して送ることを願う 7 個の意味づけをしていたことが明らかとなった。看護職は、高齢透析患者が主体的に療養生活に取り組むことができるように支持的に支援することが必要である。そのため看護職は、高齢透析患者の身近な支援者として、あらゆる機会を逃さず観察やコミュニケーションを通して患者を把握し、その人の価値観や信念なども含めた理解を深める必要がある。そして、療養生活の中で揺れ動く透析患者の気持ちを汲み取りながら、高齢透析患者と家族を含めたアセスメントを行い、他職種との連携を深め、適切な支援を行う必要があると考えられた。</p>			

- (備考) 1. 研究の目的・方法・結果・考察・総括の順に記載すること。(1200 字程度)
 2. ※印の欄には記入しないこと。